

クラシックバレエの歴史と現在のバレエに関する一考察

指導教員 國枝 タカ子
発表者 齋藤 詩織

キーワード：クラシックバレエ、歴史、宮廷バレエ、芸術活動、メセナ

1. 緒言

クラシックバレエは16世紀のイタリアで生まれ、発展した「パ（振り）、音（音楽）、色彩（衣装）、形態（装置）」の複合芸術である。500余年間に変貌しつつ現在の形になった。

イタリアで生まれ、フランスで完成し、ロシアに伝えられ、ロシア経由で日本にもたらされたバレエは、大正、昭和を通じて発展した。近年、老若男女を問わず日本ではバレエが楽しまれている。

一方で、バレエ団の経営や公演費用がかかりすぎるなどの問題も抱えている。通称「大人のバレエ」というバレエ未経験者、大人のためのクラスもダイエットブームの追い風により流行している。

舞踊の起源・歴史を調べ、これからのバレエの在り方・課題、普及について考察するのが本研究の目的である。

2. 研究方法

2-1 文献研究

バレエの歴史、バレエと健康について、国立国会図書館資料を中心に文献研究を行った。

2-2 フィールドワーク

日立市内の「大人のバレエ」クラスに通う19名と、バレエ歴5年以上の中・高生16名にバレエに関しての質問紙調査を行った。

3. 本論

3-1 バレエの歴史について

3-1-1 バレエの起源

イタリアの宮廷から発生し、フランスに移入されロシアで発達した舞踊劇であり、パ（ステップ又は舞踊の踊り）、音（音楽）、色彩（衣装）、形態（装置）の複合芸術である。

15世紀イタリアでは、「バッサダンツァ」がフィレンツェ、ベネチア、ウルビーノの貴族の宮廷で踊られていた。ここから、「バロ」が発展し、この「バロ」がバレエのパの起源となった。

名家メディチ家の娘カトリーヌ・ド・メディチが芸術家を引き連れてフランスに嫁いだため、バレエ・音楽・料理がフランスにもたらされた。

3-1-2 フランスのバレエ

フランス王ルイ14世時代のバレエ復興、18世紀のフランスの舞踊家・振付家、ノヴェルの出現により舞台展開に劇的な形式を初めて与えられた。宮廷で貴族の間で踊られていたバレエは、仮面をつけた男性舞踊家によって踊られるのが一般的だったが、後に長かった衣裳も短くなりロマンティックバレエ時代には女性舞踊家が活躍するようになった。19世紀前半にロマンティックバレエとしてとして開花した。フランスを中心としてプロイセン、イギリスなどでも発展した。

3-1-3 ロマンティックバレエ

ロマンティックバレエとは、ロマン主義のバレエである。「ラ・シルフィード」「ジゼル」に代表

され、妖精や悪魔が登場する幻想的なもの、エキゾチックな異国趣味のものが多い。くるぶし丈のチュチュを着た女性舞踊家の、ポワント（つま先立ち）の技法による軽やかな動きが特徴である。

3-1-4 クラシックバレエ

ロマンティックバレエが19世紀後半ロシアに移植された後にクラシックバレエへと発展した。クラシックバレエとは、古典主義のバレエであり、ストーリー性がある物語が多く生まれた。また、ロマンティックバレエ時代より技法は複雑になり、動きやすいように丈の短いチュチュが考案された。2人で踊るグラン・パ・ド・ドゥなどの様式も成立。

3-2 日本のバレエの歴史

3-2-1 日本のバレエの起源と発展

日本にバレエが伝わったのは、1911年（大正元年）である。ローシーという人物が日本にダンス・クラシックの技法を伝えバレエを上演するために来日した時だというのが定説である。その後、オリガ・サファイア、アンナ・パブロヴァによっても伝えられた。

小牧正英は、1946年（昭和21年）に帰国し、終戦を機に荒廃の東京にもバレエを上演したいと、東京のバレエ陣が集結して「白鳥の湖」全幕の日本初公演が行なわれた。これをきっかけに東京バレエ団が発足したが、後に解散した。

3-2-2 海外のバレエ団の来日公演

1957年（昭和32年）モスクワからボリショイ・バレエが初来日した。この機を境に、1958年に日本バレエ協会が設立された。日本の現代バレエの向上、振付家の育成に効果を上げている。茨城県でも、バレエダンサーをゲストとして迎え、茨城県内のダンサー達と共演させる等、地方のバレエの向上にも貢献している。

3-3 バレエの一般への普及

3-3-1 バレエ層の広がり

近年、日本のバレエは舞踊家・振付家・音楽家・指導者の努力もあり、積極的な発展を続けている。その一つの要因として各メディア（TV・ドラマ・CM・映画・雑誌等）の影響も大きい。最近では、「大人のバレエ」という初心者向けのバレエクラスが人気であり、質問紙調査によっても関心が大きいことが裏付けられた。また、スポーツジムで気軽にバレエを受講可能になっている。

一方、バレエ教室では幼児クラス（ベビー科）の発展も目覚しく、主要なお稽古事として子どもたちに普及している。この場合、ワガノワ、チケッティによる本格的なメソッドを厳格に貫くと、ケガの発生など起こりうるので、発育・発達に合わせた教育法が求められている。

3-3-2 スキルの改訂

年代を問わず、踊るということは人間に自然に備わっている本能的なものである。バレエは音楽

を感じながら身体で表現し（踊り）自然と心と身体を感じることができる。踊るということ新しい自分を発見し、身体全身を使って自由に表現しながら身体を動かすことは有意義である。

クラシックバレエの技法のうち、股関節の外転とポアント（トゥシューズによるつまさき立ち）の二つが不十分に行なわれると、ケガの原因になる。したがって、初心者向けには、特に成人の場合には、スキルの改訂が必須となる。

- 1) 股関節の外転を無理に要求しない。
- 2) トゥシューズ（ポアント）を履かなくても踊れる振付を教師が工夫する。

3-4 バレエ団のマネージメントの諸問題

3-4-1 国の芸術活動支援

バレエ先進国では、公的なバレエ学校があり、バレエの発展に役に立っている。日本にも1997年に新国立劇場バレエ団が設立された。国立はこの一つだけである。海外に比べると国の芸術活動に対する支援政策は軽視され、民間の公演活動に頼っている。

民間のバレエ団では舞台観客がほとんど出演者の家族になってしまう問題がある。また、チケット代が高額なため、観客が少ない。チケット代を安くすれば、観客は増えるが、バレエ団の運営は苦しくなるというジレンマがある。そこで、健全なマネージメントが必要になってくる。

3-4-2 メセナ

芸術文化振興基本法の策定により、メセナによる民間企業の芸術支援費用が増えた。例えば、アサヒビールやパナソニック、サントリー（ホールを都心に設立）などである。

3-5 現代のバレエを盛んにする要素

1) 歴史的要素

イタリアでは宮廷が舞踊のスポンサーであり、貴族の儀礼がバレエの発展を支えた。バレエにより、貴族の上品さや権威の高さがアピールされて、権力の保持に貢献した。すなわち、富（上流階級）がバレエを支えていたのである。

同様に、フランス宮廷バレエ、ロシア皇帝によって保護された宮廷バレエ、ドイツ・プロイセン王国の舞踏会で踊られたバレエは、富と権威、上品で美しい繊細で軽い女性達が鳥のように飛翔するバレエとして発展した。

2) メディアの要素

バレエダンサーの熊川哲也や草刈民代がテレビや映画に出演することにより、社会の注目度を集めた。これが劇場の観客動員に結びついている。マネージメントから見れば、マスコミによる注目度は重要な要素である。

3) スポーツとしてバレエを見直す

バレエとは総合芸術であるが、全身を使って運動し、複雑な振付をスキルによって使いこなす二時間余りに渡って有酸素運動を継続するためスポーツとして見直しても良いのではないか。また、トゥシューズにより、6平方センチメートルのつま先に全体重を乗せてバランス良く立ったり回転したりするバランス能力は高度なものである。身体文化としてバレエをスポーツの一つとして見直してみるのも一つの考えである。

4. まとめ

- 1) バレエの起源は15世紀イタリアの「バロ」であり、フランスに伝えられて発展し、完成した。
- 2) 18世紀にノヴェールが出現しバレエに劇的な舞台展開をもたらされて、現在のパ・音・色彩・装置の総合芸術になった。
- 3) 19世紀のロマンティックバレエにより名作「ジゼル」や「ラ・シルフィード」が出現し、ポアントやチュチュなど女性舞踊家の技法が完成した。
- 4) 古典主義のバレエは、複雑な技法を生み出しスカート丈の短い衣裳、グラン・パ・ドドゥ、などの様式も成立した。
- 5) イタリアのチケッティとロシアのワガノフにより現代に伝えられているクラシックバレエの技法及び教育法が確立した。
- 6) これからのバレエの課題は次の通りである。
 - 6-1) 国の芸術活動支援は2007年現在では不十分である。日本では国立のバレエ団は一つしか設立されていない。これは軽視と言っても過言ではないだろう。欧米各国並みに拡充したいものである。
 - 6-2) 民間のバレエ団の運営にも支援が必要である。フランスやロシアの宮廷では上流階級がパトロンとなったが、現在では、文化政策によりきめ細かな支援が行なわれている。
 - 6-3) メセナの充実も必要である。
 - 6-4) スキルの改訂は、誰もがバレエを踊れる為に必須である。股関節の外転とトゥシューズを強制しない技法を教師が考えなければならない。
 - 6-5) 観客等バレエ人口の増大を図る。

5. 引用参考文献

- 1) 佐藤俊子訳マリ＝フランソワーズ＝クリスト著（1970年）：バレエの歴史、(株)白水社
- 2) 財団法人東京都文化復興会（1994年3月22日）：クラシックバレエおよび現代舞踊界の芸術活動に関する調査報告書、財団法人東京都文化復興会企画調査課、3-89
- 3) 蘆原英了著・東環発行（1984年9月）：バレエの歴史と技法、山田大聖堂製本、2-262

表1 質問紙調査結果

年代	始めたきっかけ	身体変化	今後の目標	始めて良かった事	継続
10代	憧れ・親の薦め	姿勢が良くなった	技の上達	踊ることが好きになった	20歳
20代	憧れ・趣味見つけ	腰痛が治った・元気になった	身体を柔らかくする	踊ることが好きになった・日々が楽しい	生涯
30代	姿勢を良くしたい	姿勢が良くなった	身体を柔らかくする	姿勢が良くなった・ストレス発散	生涯
40代	健康の為・踊りたい	軽くなった・姿勢が良くなった	舞台に立つ	踊ることが好きになった	生涯
50代	憧れていたから	姿勢が良くなった	舞台に立つ	姿勢が良くなった	生涯